

私とわたと土

とよあけ
豊明市長(愛知県)

こうきまさふみ
小浮正典



大学で体育会相撲部に入部

身長177cm、体重92kg。得意は両差しからの速攻と右上手投げ。これが大学時代の私についての紹介文です。36年前、私は京都大学に入学すると未経験ながら相撲部に入部しました。なぜ相撲部に?とよく聞かれます。相撲が好きなのはもちろんですが、最終的には日本人誰もが知るメジャー競技にもかかわらず全国大会に最も出場しやすいスポーツだからでした。

全国の大学で相撲部があるのは40前後。とても少ないのです。全大学が全国学生相撲選手権大会(インターカレッジ)に出場できます。さらに、将来プロで活躍する選手とも対戦できます。私も元関脇土佐ノ海(同志社大学で2学年後輩)や元幕内の朝乃翔や朝乃若(両者とも近畿大学で同学年)らと



平成2年の全国学生相撲選手権大会の団体戦でCクラス3位となりBクラスに進出した時の写真。前列左が大学3年の私

対戦できました。残念ながら彼らには全て負けましたが、スポーツ推薦で大学に入部した100kgを超える相撲エリートを倒した何番かは自分の誇りです。

しかし、稽古はつらく苦しい。先輩に転がされて泥だらけになり、「早く立て」と怒鳴られ、頭から向かっていくことの繰り返し。特に私は、2年先輩の十枝慶二さん(相撲ライターとして活躍)や4年先輩で医学部生の鈴木実さん(現在は京都大学教授)ら強豪大学の選手も破る実力者がそろい、相撲部史上最強と言われた時代に入部。何をやっても相手はまったく一歩も動かない。鎖骨の骨折などけがも絶えない。突き指や出血を伴う擦り傷などは日常。しかし、60kgそこそこの同学年、福見尚哉君(鳥取県職員)や吉井孝育君(積水化学工業株式会社)が毎日土俵に来るのに引つ張られ、自分も3年時には主将になり、4年間やり切ることができました。先輩と仲間のおかげです。

心身ともに相撲のおかげ

卒業後も相撲部の後輩たちと相撲を取り続けました。理由は、常に部員不足で稽古相手が足りないからです。母校の京大相撲部は常に5人いるかないかの青息吐息で80年近い伝統を守ってきました。厚生事務次官や宮内庁長官を務められた羽田信吾さん(昭和40年卒)、公明党代表や国土交通



平成4年当時の京都大学相撲部土俵。土俵上の正面が大学4年の私

大臣を務められた太田昭宏さん(昭和43年卒)らが先輩にいらっしゃいますが、どの時代も部員獲得に奔走されたそうです。私もOBに胸を出してもらい強くしてもらいました。しかし、40歳過ぎに限界がきて土俵に上がることから引退しました。後輩がぶちかましてくるのを右胸で受けるのですが、筋肉が落ちて、青あざよりひどい黄色いあざが落ちなくなりました。

けがが付き物のスポーツですが、相撲には感謝の一言です。私は社会人になってから病気休暇を取ったことがあります。サラリーマン時代に計3度、年間の労働時間が6000時間を超えました(阪神淡路大震災のあった平成7年、リーマンショック翌年の平成21年、東日本大震災のあった平



平成30年わんぱく相撲豊明場所のエキシビジョンで小学生たち相手に相撲を取る私

成23年)が、会社の事務机がある床に数時間寝てそのまま仕事という、むちゃくちゃなことを普通にこなしていました。相撲が体を強くしてくれたのです。

また、私は若くから管理職をさせていたのですが、部下の指導に相撲部の経験が役立ちました。相撲部の後輩たちの中に

は2年やっても1勝もできない者もいます。しかし、5人制の団体戦を戦うには、全員が一丸となって、上位に行くのだと気持ちを一つにすることが大事です。市長となった今も一緒です。私の座右の銘は「一丸」。職場も一丸、市民の皆さまとも一丸です。市民の皆さまの暮らしを向上させることだけに軸足を置いて判断し、挑戦し、行動する集団が豊明市役所と私も職員たちも考えています。

市長になっても相撲は心の支え

豊明市は約40年前に愛知県でいち早く「わんぱく相撲大会」を始めた自治体です。主催者は豊明青年会議所。ただし、相撲の選手経験がある方は今はおらず、12年前に私が全国公募で選ばれて副市長として本市にお世話になって早々に県大会に出場する小学生の指導を依頼され、9年前に市長になってからも指導を続けてきました。しかし、年齢とともに相撲を取ると右膝に激痛が走り、5年前にわんぱく相撲の指導からも引退しました。

6年前には大相撲の行司最高位である立行司、第36代木村庄之助さん(本名・山崎敏廣さん)に東京から本市まで来ていただき、市民向けの講演を開催することができ



平成30年に第36代木村庄之助さんに本市内で講演いただいた時の写真。左が庄之助さん、右が私

ました。元市議会議員の方が山崎さんと同じ鹿児島県出身というご縁で紹介いただき、実現したものです。山崎さんからは年6場所ごとに大相撲の番付表を送っていたなど、交流いただきました。

今は、大相撲の通算勝ち星歴代7位の元関脇若の里の西岩親方と親睦を深めております。西岩部屋が6年前に名古屋場所の宿舎を本市内に設けられたご縁です。部屋の力士たちも毎年、市内の幼稚園や保育園で子どもたちと交流してくださっています。親方とは「豊明市内で西岩部屋力士の幕内優勝パレードをしてもらうのが夢」と話しています。

市長になって残念なのは、土日仕事もあり、後輩たちが名古屋大学にて試合をするなど、近くまで来ていても応援に行けなくなったことです。今の時代にはほぼ全裸という格好悪さで、防具がないため年中傷だらけになる相撲という競技に取り組んでいる20歳前後の若者にエールを送り続けます。